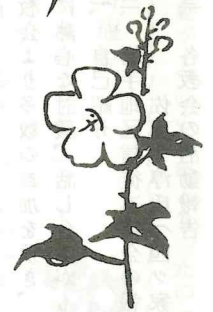


# 仙台司教区 教区事務所だより



(第 46 号)  
昭和56年8月1日

6月29日 仙台教区司教座教会献堂記念日

「カテドラル」は、教区を中心

信仰の目で正しい理解を！

カトリック中央協議会で発行している「典  
礼暦教会所在地」には、「こよみ」の部にそ  
れぞれの教区の司教座教会献堂記念日が書き  
入れられている。以前は司教叙階記念日など  
もあつてマチマチだつたのを、何年か前に統  
一したように記憶している。それには教区に  
とつての創立記念日といった意味がこめられ  
ている。わが仙台教区の司教座(カテドラル)  
献堂記念日は6月29日、つまり、聖ペトロ・  
聖パウロ使徒の祭日になつてゐる。献堂式の  
行われた一八九七年(明治三十年)には、仙  
台教区はまだ生まれておらず、元寺小路教会  
はカテドラルでなかつた(仙台は函館教区に  
属し、カテドラルは、函館元町教会)。仙台  
教区になつたのは一九三六年(昭和十一年)  
で、戦災で焼失した元寺小路教会が戦後再建  
され献堂されたのは一九五二年(昭和二十七  
年)9月23日である。この間の事情を記録し

た「宮城県カトリック教会百年のあゆみ」と  
いう本が、このたび元寺小路教会を発行所と  
して発行された。仙台教区の歴史を知るため、  
ぜひ読んでほしい本である。

さて、このようにカテドラル元寺小路教会  
の献堂記念日が、元寺小路教会だけのものでは  
なく、仙台教区全体の記念日になつてゐる  
ことに注目しよう。司教座があることによつ  
て、元寺小路教会が教区内の他の小教区教会  
とは違うものであることを示している。それ  
は当然のことだが、使徒の後継者としての司  
教の、宣教司牧のすべてにおいて教区全体に  
およぶ権威に由来するものでもある。ややも  
すると教区行政を当世風のデモクラシーの概  
念で考えようとする信者もいるが、本当は信  
仰によつて支えられるヒエラルキーの考え方  
にもとづくことを忘れてはならない。もつと  
もつと教会のことを(教会の歴史や、制度や

典札など)勉強するようによし。

先日の6月29日には元寺小路教会で司教さ  
まのミサがあり、お祝いが行われた。しかし  
教区全体の記念日という認識は、たふんどの  
教会にもなかつたろう(これまでも何もして  
いないから仕方はないが)。現在、この元寺  
小路教会の再建が考えられている。戦後に建  
てられた木造モルタル造りの聖堂はすでに三  
十年にもなり、耐用年数を越えたからである。  
カテドラルの意味から考えるなら、元寺小路  
教会の再建は、むしろ仙台教区全体の問題と  
するのが当然なことだろう。仙台教区の司教  
座教会として、私たち仙台教区のすべての信  
者がつよい関心をもち、立派なカテドラルが  
再建されるように祈り、協力しよう。この問  
題は多くの困難を乗り越えて進められてゆく  
ことになるが、そのためには、カテドラルのもつ  
意味を理解することがまず第一歩になろう。

SPRINGER

## 司教様の日程

(七月十日現在)

- 8月3日 教区司祭団役員会
- 28日 スペルマン病院理事会(仙台)
- 31日 中央協議会建物検討委員会(東京)
- 9月2日 明の星婦人会黙想会(仙台)



## 教区事務所夏期休業

8月1日(出)8月15日(出)  
・教区だより9月号は、9月15日発行  
の予定です。

カトリック病院の未来は

第17回日本カトリック医療施設協議会

仙台で開催

去る6月11日から13日の三日間、第17回日本カトリック医療施設協議会が仙台を会場に行われた。

総会には、医師、看護婦、病院施設にかかわる人たち80人が参加し、それぞれの立場から現代医学のかかえている問題と、その中であつて信徒、修道女の少ないカトリック病院が、いかにその使命、役割を果たしていけばよいかについて話し合った。

パネルディスカッションでは、国立仙台病院の菊地金男氏の司会で進められ、スペルマン病院長前田敏行氏、同病院看護婦熊谷みわ子修道女、名古屋聖霊病院山本好明氏の三人がパネラーとして話題提供があり、その話をもとに意見交換が行われた。

特にホスピス(末期患者専門病院)、バイオエシックス(生命倫理)の確立、医学と宗教のかかわり、妊娠中絶、安楽死の問題などを今後の課題として研究していく事になった。

青森県

信徒連絡協議会 開催



去る6月28日(日)13時40分から15時50分まで本町教会で32名の出席のもとに青森県信徒連絡協議会が開かれた。内容は次の通りである。

- (1) 司牧評議会評議員の任期満了に伴い、

青森地区から岩佐博、八戸地区から藤村重実を選出

- (2) 司牧評議会定例会の報告
- (3) 仙台教区広報委員会報告

以上二つの報告を藤村より行われた。特に「カトリック新聞」の購入について強調した。

- (4) 青森県信徒大会の開催について

種々な案が出され、活発な討議が行われたが、大体次のような要項がきまつた。

- 日時 9月27日(日)午前10時~午後15時
- 場所 青森市
- テーマ「家庭を通してキリストの愛をひろげよう」

サブテーマは、実行委員会で決定

- 講演 佐藤司教

(準備)ラベ神父様を実行委員長として、5名の委員が選ばれ、今回は、初めてという事で、親睦を兼ねた内容にする。分科会も持ちたい。詳細は、実行委員会で決定する。

昭和五十六年度

岩手県・教会委員懇談会



昭和五十六年度教会委員懇談会が六月十三十四の両日、岩手カトリック・センターにおいて県下各教会より多数の参加を頂き、次のような議題に熱心を討議、話し合いがもたれた。

- 一 自己紹介
- 二 岩手地区信徒連絡会の報告
- 三 佐藤 淳氏(四ツ家教会)

14日

- 一、「カリタス・ジャパンの活動について」 横浜教会・松村神父様
- 二、「私達に何が出来るか」

以上、二日間の懇談会を通して、特にカリタス・ジャパンについてあらためて認識を深くすることが出来たと同時に、数多くの問題があることを知り、明日への活動の召命を心に感じつつ会を終了した。

(四ツ家教会・高橋一剛)

..... 仙台教区修道女連盟 .....  
..... 研修会 .....  
..... 「上手に年をとるには？」 .....

梅雨空のもと、ここ聖ウルスラ学院中・高の一室から、明るい笑い声が溢れていた。六月十四日、上智大学教授アルフォンソ・デーケン師を招いての東北地区修道女連の集いもたれた。

「上手にとしをとるには」と題して福音的ラディカリズムに基づく人間性の円熟を求め、具体的な示唆と解決に富む講話がなされ、聴き入る七十七名のシスターズは、修練者も中年の者も、我が身に照らし合わせて実のある一日を過ごした。老齢化の進む現代であつて、死を透してきょうの生命を生き生きと生きる秘訣を、ユーモアと体験を通して語りかけられるドイツ人の師の底ぬけの明るさに一条の光を見、福音を新たな目と心で味わった、というのが、参会者一同の感懐ではあるまいか。論旨は既刊・近刊の同師のご著作にゆずり、東北に散在する各コミュニティーの更に一歩進んだ交わりの可能性と若さを期待したい。



ゲーヴィレル神父（花巻教会）

表彰さる

岩手県明るい社会づくり運動から

去る6月12日、岩手県民会館大ホールにおいて、「明るい社会づくり推進岩手県大会」が開かれ、席上、花巻教会主任のゲーヴィレル神父は、明るい社会づくりの模範者として、岩手県知事の中村直氏より表彰された。

ゲーヴィレル神父は、あいにく、ベトレヘム会の総会出席のためスイスに帰国中だったので、代理としてマルコ神父が表彰状と記念品を受けた。

ゲーヴィレル神父は、日赤の献血運動に積極的に協力、現在87回を越える岩手県最高献血協力者である。また、福祉施設の慰問は毎週欠かすことがなく、お年寄りの方々や長期入院患者から毎週心待ちに待たれている。

このようなゲーヴィレル神父の目立たない  
##### アフリカ難民救援特別キャンペーン

アフリカの友が今、

苦しんでいる



飢餓大陸アフリカで、いま救助を求めている国は28か国にもほり、二千万人以上の人が飢餓の状態に追い込まれています。

三年続きのかんばつと相次ぐ内戦、洪水、伝染病と非常事態の続く中で、人々は、「アコロアコロ（空腹だ）」と訴えながら、なすすべもなく餓死していきます。

カリタス・ジャパンでは、このアフリカの

長年の活動が、今回の表彰となったのである。

春の寿庵祭

水沢市福原でー



5月31日(日)、水沢市福原の寿庵廟前で、午前10時から、春の寿庵祭が盛大に行われた。

後藤寿庵がこの世を去って三百余年、胆沢平野の農民は、今更ながら、寿庵の功績をしるんでいる。寿庵祭は、水沢教会のローネル神父の豊作の感謝と願いをこめた祈りに続いて佐藤司教を中心として共同ミサが行われた。岩手県内はもとより、青森、宮城県方面の信者合わせて三百余名が、主の食卓を共にした。

春の寿庵祭は、ローネル神父が水沢教会に着任して以来20年続けられ、今や、仙台教区の年中行事の一つとして定着しつつある。

佐藤司教は説教の中で、

「後藤寿庵は、目に見える豊かな水で胆沢平

##### 緊急事態に対し、7月から9月までの三か月間を「第一期アフリカ難民救援特別キャンペーン」とし、全国的に呼びかけることにしました。小教区、または教区単位で、このキャンペーンをぜひ盛り上げていただきたいのです。

私達は、すでに、インドシナ難民の方々のために、インドの人々のため救援を続けてきました。今、まだ世論の関心を集めるに至っていないこの苦しんでいるアフリカの友のため、祈りと、募金運動を始めましょう。

野をうるおし、一万ヘクタールの水田の基礎を築いてくれました。しかし私達は、寿庵が、主イエズス・キリストによって与えられた永遠に渴くことのない水のためには、福原追放をも甘受したことを改めて考えてみなければなりません」と結ばれた。

今年、教皇様、マザー・テレサの訪日等の影響のためか、教外者の参加は、最高であった。ミサの後、水沢市長をはじめ、来賓や、東北各地から集まった信者たちが、野原に用意された食事を楽しみ、会食の間、地元福原地区の婦人会が当地方の民謡や踊りを披露し、なごやかなひとときを過ごした。

八戸塩町教会建設に

種々のところみ



八戸塩町教会では、新聖堂建設のための資金の一助にと、旧聖堂の写真6枚をパネルに入れ、また、脇祭壇の支柱から75本の十字架を作り、塩町教会建設のための祈りの御絵を合わせて販売した。大変好評で、全て販売し終わったが、材料費を支払っても十数万の純益となった。それと共に塩町教会では、15グループが、毎日ロザリオ一連と建設のための祈りをしており、毎日、ロザリオ三環が同じ意向で祈られていることになる。

なお、建設のための祈りを刷り込んだ塩町の保護者「あわれみの聖母」の御絵は希望者に差し上げますので、塩町教会までお申し込み下さい。（八戸・塩町教会・藤村重実）



仙台教区の広報活動  
アンケートまとまる  
(58教会中32教会回答)

最近の教区事務所だよりの好評記事

□内は得点数

- ① 仙台司教区統計雑感(4月~7月) [9]
- ① おらが教会(毎月) [9]
- ③ 司教様の日程(毎月) [5]
- ④ 春秋(毎月) [3]
- ⑤ パウロ書院普及ベストテン(3月) [2]
- ⑤ 教皇様の横顔 [2]
- ⑤ 教皇様訪日関係記事 [2]
- ⑤ 読者のぺえじ [2]
- ⑤ 家庭を通してキリストの愛を広げよう [2]
- ⑤ 「家庭における子どもの信仰教育の手引」の紹介 [2]

カトリック新聞の好評記事

- ① 論壇 [8]
- ② 世界のカトリックの動き [6]
- ③ 主日の説教 [5]
- ④ 地の塩 [3]
- ④ 他教会の動向 [3]
- ④ 新刊図書紹介 [3]
- ⑦ 国内の動き [2]
- ⑦ 個人の信仰体験 etc [2]

仙台教区内の各教会では、教会報を出しているだろうか、それは、どんな役割を持って  
いるのだろうか、また、仙台司教区事務所だ  
よりは、どのように読まれていだろうか、そ  
中でのベストテンと思われる良い記事は？  
など、今後の広報活動の参考とするため  
に、6月初旬に、各教会にアンケートしたところ  
次のような結果となった。  
あなたの教会でも、何か参考となることは  
ありませんか？

おらが教会でも、教会報を作  
ろう、との気運が高まれば、喜  
ばしいことである。

- 一、教会報の発行について
- 発行している 32 教会 V
- 発行していない 17 教会 V
- 発行回数 1 毎週 [5]、毎月 [22]、

隔月 [5]、年一回 [1]

二、教会報の役割は？  
(a) 信徒間の交流を深め、連帯意識を強め、  
信徒と教会との結びつきを堅くする。

・教会内のニュース、教会の各種委員  
会の報告、行事のお知らせ、信徒の近況を  
知らせることによって。

・教会を離れている人、来れない人に教  
会報を送ったり届けたりすることにより  
つながりを保つ。

(b) 信徒の信仰教育の場となっている。

・司祭の霊的講話等の掲載により、司祭  
の考えや、その心を理解する事ができる。  
・典礼、祝日の意義、信心業、現代の信  
仰に対する考え方、公会議後の精神等の  
掲載によって、信仰を問いなおし、新た  
に自分の信仰を見なおすことができる。

(c) 信徒の意見交換の場となる。

・問題意識の昂揚のため、問題提起、意見、  
提言、随筆、文芸作品等の掲載によって。

教区だよりについての意見

☆司教様の日程を拝見し、その多忙さがよく  
わかる。我々も自分の出来る範囲でキリス  
トの弟子としてがんばりたい。 [3]

☆教区内の種々のニュースを知ることにより

お互いの連帯意識と信者としての責務、お  
互いに祈り合ねばならないという心を持  
つことができ、はげまされる。 [2]

☆教会の活動状況を各地に頼んで書いてもら  
うだけでなく、広報委員が自分の足で歩き、  
見聞きしたことを正しく報道してほしい。

☆地方教会の状況を、くわしく報道し、大教  
会主義にならないように。

☆事務所だよりという名称を発展的に解消し  
別の名前をつけた方がよい。 [2]

☆ニュースは今まで通りでよいが、もつと信  
仰体験、随筆、感想文をのせてほしい。 [5]

☆信仰生活の助けとなるもの、信者としてど  
のように生きるべきか、信者として勉強で  
きる記事も、のせてほしい。

(主なものだけのせましたが、多くの貴重な  
御意見は何らかの意味でこれからの広報活動  
に反映させるよう、努力したい。 編集部)

祝

気仙沼カトリック教会 宣教百年

9月27日(日)記念式典



読者のページ

ポーランド

を 旅して

(上)



ローマ法王ヨハネ・パウロ二世の来日、ワレサ議長の来日、と最近日本に話題の多かつた両者は共にポーランド人です。

私は、縁あって、このたびポーランドを旅するチャンスがありました。

ポーランドはヨーロッパ大陸の東北部に位置し、バルト海に海岸線を持ち、ヨーロッパ第七位の大きさで日本よりやや面積のせまい国土を有する国です。共産圏内の国でもあり、又作曲家ショパンの故国でもあります。

この国は現在、国家生産の十五パーセントが共産主義に協力し、残る八十五パーセントの生産、つまり平和産業は自由経済としていきます。

そのためか、国民生活にゆとりがあり、国民の九十パーセントがカトリック教徒というカトリック教国でもあります。日曜日の朝六時には各教会の鐘が鳴りひびき、早朝ミサにかける老若男女の足早に行きすぎる姿が目につきます。共産主義国家でありながら、首都ワルシャワの町はシットリとした落ち着いた雰囲気の町です。ピルの合間に教会の塔が十字架を先端に空高くそびえ立ち、いかにもカトリック教国であるかのように町々を見下ろして

いる光景は又すばらしいながめです。緑の森がそここにあり、立ち並ぶビルは皆古びた何世紀か前の建物という感じですが。ワルシャワは第二次世界大戦でドイツ軍にメチャメチャにされ、多くの犠牲者を出すという悲惨な経緯を過去に持っています。それでも二十年、こつこつと戦災から立ち上がり、現在のワルシャワは普通通りのワルシャワの町となつたそうです。

まず、ガレキを片付け、都市計画を立て、第一に下水道の地下整備を完了し、それから区画整理をして建築許可をしたそうです。戦後の復興で良くなつたのは道路の幅が戦前より広くなつた事だと、市民は喜んでいます。

どこの国でも同じ事、最近車が多く、道幅のせまいのは特に困ります。道幅の広いという事は人々にゆとりを与え、落ち着きが得られます。復興した建築物は昔の原型そのままを再現させ、古さを出すために薬品をかけたそうです。古い物を大切にすることの国の人々にはおどろきました。

作曲家ショパンは、この国の人々に最も親しまれています。次回は、ショパンとポーランドについて書いてみたいと思います。

(小名浜教会・佐藤テツ)

1981年 年間目標

家庭を通して

キリストの愛をひろげよう

(仙台司教区)



仙塩地区司祭の集まりで宮城県司祭大会が話題になった。司祭は出席すべきものかどうか、という話になったとき、「特別に招待されていけないなら、出席する必要はないのではないか」

とある司祭が言った。多くの司祭はこれに反対で、「教会はキリストを中心に司祭、修道女、信徒が一つになった神の家だから、教会の催しに司祭が出席するのは当然」という意見だつた。

しかし私は、司祭の集まりや、修道女だけの会合があるように、信徒だけの大会があつてもいいと思うし、もし宮城県の信徒大会がそういうものなら、司祭は出席する必要はないと考えるのだ。

私が言いたいのは、信徒はもつと自主性をもって活動してほしいということ。司祭や修道女の言いなりに動くことではないということだ。信徒の一人一人が神の民であり、福音宣教に責任がある。信徒でないと出来ない役割もかなり多い。それらは、司祭に何から何までまかせて、その命令で動くだけでは果たされない。司祭も、すべてを自分の権限で、という考えをやめ、信徒を信用してまかせた方がよいにきまつている。

(村首神父)

おら教会 (10)



青森・浪打教会

青森駅から四キロほど東へ、学校と住宅の閑静なたたずまいの中にそびえる尖塔、右側は二階建の司祭館、その奥に幼稚園、ここが信徒数370人の「おらが浪打教会」である。

教会の近くには、聖母被昇天修道女会の修道院、明の星高等学校、同短大、幼稚園、少し離れた所には、市立浪打小学校や佃小学校があり、浪打小教区は教育環境に恵まれた住宅地である。

近年、青森市の人口は南へ南へと移動している。それに拍車をかけているのは、団地増設である。従って国道から北側の教会の中にはすでに過疎化現象が見え始めているが、幸い「おらが教会」は周囲に学校や主婦の買い物に便利なスーパー、商店のならば「浪打銀座」を控えるなど、いろいろな面で良い環境に恵まれ、その利点を生かして、神父様方は宣教に情熱を燃やしている。

主任のパウロ・ラヴォア神父様は昭和29年黒石教会を振り出しに、今年で28年間の本県司牧。浪打教会には48年から、主任司祭として毎日多忙な聖務に励んでいる。得意のユーモアと人なつっこい笑顔とやさしさで人を引

きつける。五、六年ほど前から、青少年教育に特に力を入れ、一教会だけに留まらず、県内の各教会と助け合つて仲間づくりを推進している。中学生会、高校生会、大学生会、と、発展的に信仰を深めて成長してもらうように、カトリック・アクションの強化と充実に全力投球している。

一方、教会内の活動では、地味ではあるが注目されるのは、手づくりの広報「なみうちだより」を十年以上も一回も休まず毎月発行していることである。現在毎月三百部印刷し、内八十部ほどを、種々の都合で教会に來られない人に、また交流のある他教会へ発送している。しかし切手代だけでもバカにならない。昨今、おらが教会では、すでに数年前から直接手から手へ渡す運動を展開している。教会から疎遠になつていゝ信者へ直接に手渡しし、短いながら会話を重ねることによつて教会を身近に感じてほしいという目的がある。

また、シスターや青年による子供達の教会学校や未信者の子を対象とした土曜学校も教会にとつて重要な宗教教育の一端を担っている。

クリスマスや復活祭になると、日頃お世話になつてゐる外部の人を招待する。特にクリスマスには、五百人近い人が出席し、教会員を喜ばせてゐるが、それと共に、狭くなつた教会を何とかしなくてはと、苦しい台所を横目に、増改築案がしきりだが、果たして実現されるのはいつの日のことか。

また、おらが教会の自慢のタネは、スカウト活動の盛んなことである。ボーイスカウト

は昨年で25周年。記念式典と共に、教会裏の敷地に、募金活動で立派な二階建のスカウトハウスを完成させた。これに負けじと、ガールスカウトでも同様にハウスを建てている。現在隊員は、ボーイ、カブ62人、ガール、ブラウニー69人を教え、リーダーや父兄の中にも信徒が深く浸透して、スカウト活動を通してカトリック精神を育てている。

ここで少し青森市のカトリックの歴史を振り返ると、青森市に初めて教会が開設されたのは、小野忠亮神父著の「北日本カトリック教会史」によれば、明治17年(一八八四年)パリ外国宣教会の優れた植物学者でもあつたフォーリー神父が、青森市寺町の筆屋の二階を借りて仮教会を開いたのに始まるという。

戦時中は、浜町教会(現在の本町教会)が陸軍当局から強制買い上げを受けたため、新たに聖母被昇天会の学校の近くに土地を購入し、教会堂を建てた場所が現在の浪打教会である。やがて終戦後、浜町教会は浜町(現在の本町)にもどつた。いふなれば、浪打教会は浜町教会の分家なのである。

そして戦後36年は過ぎた。二年後には、青森市のカトリック教会は宣教百年を迎える。それらの意義を、おらが教会の今後の発展のためにも、深く黙想してみたいと思う。

・・・・・・・・・・・・・・・・

仙台司教区事務所だより46号

昭和五十六年八月一日発行

発行所 仙台司教区事務所

980仙台市本町一丁目2番12号

TEL 0222 22 7371